

発達段階		3・4・5歳児	
タイトル		地震発生時の身の守り方を知ろう	
実施日(月日)			
所要時間		15分	15分
展開		導入	展開(室内)
達成すべき目標	ねらい	地震時の様子を知り地震の怖さに気付く	地震時の保育室での身の守り方を知る
生成物		地震への関心	地震発生時(室内)に対応しようとする態度 自分の身を守るうとする態度
作業単位	形態	学級全体	
進め方	幼児の活動	絵本『ひかりのまちのまもの』を見て地震時の様子を知る。	地震について気付いたことを話したり聞いたりする。
	指導上の配慮	絵本『ひかりのまちのまもの』を読んで地震時の様子を知らせる。	地震について話し合う機会をもち、気付いたことなど幼児の思いを引き出す。
ツール	環境準備物	絵本『ひかりのまちのまもの』(理化学研究所 地震防災フロンティア研究センター発行)	行動の仕方を絵で示した選択カード * 保育室の安全な場所、集まる場所が分かるようにビニールテープなどで印をつける。
場所		保育室	

所要時間		15分		5分	
展開		展開(園庭)		まとめ	
達成すべき目標		地震時の園庭での身の守り方を知る		地震から自分の命を守ることの大切さに気付く	
生成物		地震発生時(園庭)に対応しようとする態度	合図に対する注意力	自分の身を守るうとする態度	自分の命の大切さを感じる心
作業単位	形態	学級全体			
進め方	幼児の活動	地震の時に園庭で遊んでいる場合、各遊び場でのような行動をとればよいのか考える。	遊びをやめて園庭の安全な場所に集まる。 ・手で頭部を守り身をかがめる。 ・高い所に登っている時には焦らず落ち着いて行動できるようにするなど、地震時の望ましい行動の仕方について確認する。	合図に気を付けながら、好きな遊びをする。	教員の合図に合わせて安全な場所に避難し、自分の身を守る。
	指導上の配慮	園庭で遊んでいる時に地震が起こった場合、どのような行動をとればよいのか話し合う機会をもち、幼児の考えを引き出す。	身のかがめ方を指導する時、幼児が分かりやすいように(ダンゴ虫・かめ・カタツムリなど)身近なモデルを示す。	約束ことを確認し、合図があるまで園庭で遊んでもよいことを伝える。	再度、身の守り方を確認したり、命の大切さを知らせる。頑張ったことを認め満足感をもたせる。
ツール	環境準備物			合図を送るための笛など	
場所		園庭			

『お・か・し・も』約束カード(例)



大地震がおこったら

《園庭では》

- ・園庭の中央で小さくなる
- ・遊具や木のそばから離れる
- ・高いところに登っている時にはあわてて降りてこない
- ・勝手に外へ逃げ出さない

《保育室では》

- ・防災ずきんをかぶる
- ・部屋の中央でダンゴムシのように小さくなる
- ・机(いす)の下にもぐる
- ・静かに先生の言うことを聞く
- ・出入り口をあけ、火を消す(先生)



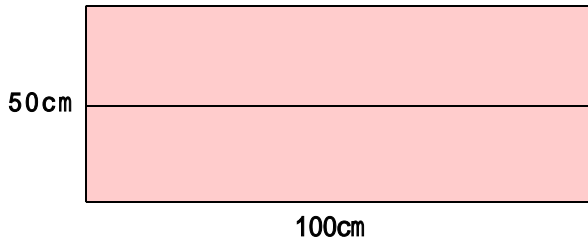
地震がおさまったら

- ・先生の言うことを聞いて園庭に避難する
- ・おしゃべりをしない
- ・おさないで歩く
- ・静かに並ぶ(並び方の約束を普段から決めておく)

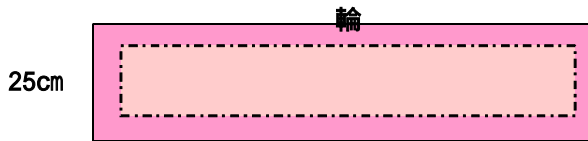


参考：生きてるってすてき(全国幼稚園教育研究協議会兵庫支部)

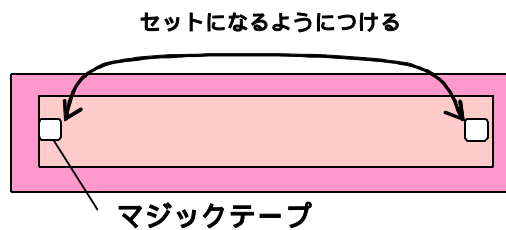
防災ずきん (座布団) の作り方



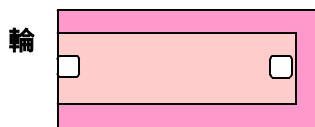
キルティングの布地を
半分に切る。



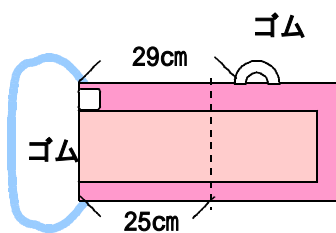
バイヤステープを付けて
周囲を縫う。



マジックテープを図のよう
に縫いつけ、二つ折りにし
て合わせる。

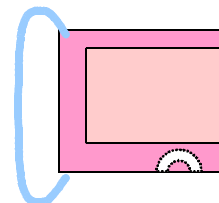


二つ折りにしたものに、もう一度図
のようにマジックテープをつける。



椅子に掛けるため、幅の広いゴムを
図のように縫いつける。

下の端は「輪」から 25cm のところ
まで縫い付け、頭が入るようにする。
上は「輪」から 29cm ぐらいの位置
(あごの下) 両側にゴムを付ける。



折りたたむと座布団になる。



* 家庭教育学級の活動として防災ずきんを作成してもよい。

参考：生きているってすてき (全国幼稚園教育研究協議会兵庫支部)

発達段階		3・4・5歳児																
タイトル		避難訓練及び引き渡し訓練(地震を想定)																
実施日(月日)																		
所要時間		10分		20分				10分		20分								
展開		導入		災害時の初期行動				避難		安否の確認		訓練の講評		引き渡し訓練のための緊急連絡	引き渡し訓練	評価・反省		
達成すべき目標	ねらい	地震発生時の身の守り方を知る		放送や指示をしっかりと聞く		<3,4歳児> 先生の指示を聞き、自分の身を守るようにする		<5歳児> いろいろな場で遊んでいる時の身の守り方を知る		放送や指示を聞いて安全に避難する		地震から自分の身を守ることの大切さに気付く		引き渡し訓練時の避難の仕方を知る				
生成物	避難訓練に向けての意欲		放送や指示を聞く態度		<3,4歳児> 先生の指示を聞き、どうしたらよいか分かる力 <5歳児> いろいろな場で遊んでいる時の避難の仕方が分かり、行動しようとする力 担任以外の人の指示も聞いて行動する力		避難時の約束を守るようとする態度 お…おさない か…かけない し…しゃべらない も…もどらない		点呼を受ける態度		地震発生時に適切に対応しようとする力		保護者の迎えを待つ態度	訓練の大切さの気付き				
作業単位	形態	3,4歳児 保育室で一齐活動時 / 5歳児 好きな遊びをしている時				園全体の活動						園全体の活動						
進め方	幼児の活動	遊んでいる時に避難訓練があることや約束ごとなどを聞き、合図に気を付けて遊ぶ。		遊びをやめて放送や指示を聞き、それぞれ安全な場所に集まり自分の身を守る。		保育室内の幼児 遊びをやめて、事前に決めておいた安全な場所に集まり、防災ずきんをかぶるなどして頭部を守る。 *3歳児は上から毛布を掛けてもらう。		園庭にいる幼児 遊びをやめて園庭の中央に集まり身を守る。 テラスにいる幼児 柱の側に集まり身をかがめて頭部を守る。		放送や先生の指示に従い「お・か・し・も」の約束を守りながら園庭に避難する。 *3歳児は誘導ロープなどを使い避難する。		クラスごとに日ごろ並んでいる順番に並び、点呼を受ける。 全員防災ずきんをかぶる。		教員の話聞き、避難訓練をすることの大切さを知る。		園庭で保護者の迎えを待つ。	保護者が迎えに来ると教員に確認してもらう。 保護者と一緒に保育室に荷物を取りに行き降園する。	
	指導上の配慮	事前に避難訓練(地震を想定)があることを伝え、約束ごとなど確認し恐怖心を取り除いておく。		放送を使って地震発生時の合図を送る。「地震です。揺れがおさまるまで小さくお待ちしましょう。」		事前に決めておいた各場所に分かれて、幼児を守ったり、声を掛けたりして、安心できるようにする。 出入口、窓を開ける。 火災を引き起こしやすい電源などを切る。		地震がおさまったことを放送で知らせる。 「揺れがおさまりました。先生と一緒に園庭に避難しましょう」 *靴を履いていない幼児には履くように声をかける。		日ごろ並んでいる順番でクラスごとに並ばせ、数を確認し、報告する。 「組 人中、出席 人、欠席 人、全員無事避難しました。」 *持ち出した防災ずきんをかぶっていない幼児に渡す。		訓練の様子から良かったことや気を付けなければならぬことを伝え、訓練の大切さを意識づける。 引き渡し訓練についての話をする。		今日の姿を認め、各クラスの年齢や実態に合わせ、訓練の大切さを知らせたり、約束ごとが理解できるように話し合ったりする。		緊急連絡網をまわす。迎えの時間に差があるので、幼児の不安が和らぐように配慮する。		引き渡しカードで引き取り者の確認・記入をしっかりと行い、幼児を保護者に引き渡す。 教員間で評価するまで訓練であることが意識してもらえよう、保護者にも真剣な態度で接する。
ツール	環境準備物	*訓練を行う前に教員間で話し合い共通理解しておく。		*園内放送		*園庭、テラスなどは担任以外の教員が駆けつけられるよう年度初めに分担を決めておく。 *防災ずきん、座布団、毛布など (防災ずきんは、並んだ時に、クラスの幼児を把握しやすいようクラスごとに印を付けておく。)		*園内放送 *座布団、防災ずきんなど *誘導ロープ		*集まる場所を知らせるクラスの旗 *緊急連絡網(名簿) *防災用品袋		*ハンドマイク *約束ごとが印象づくように用意したペープサートなど		*事前に保護者に引き渡し訓練の手紙を配布しておく。 *引き渡しカード		*避難訓練の前に降園準備をしておく。	*引き渡しカード *非常持ち出し用品、誘導ロープなどの確認 *後日、防災ずきんの回収を行う。	
場所	3,4歳児 保育室 / 5歳児保育室、園庭など						園庭											

〔保護者向けプリント例〕

年 月 日

保護者の皆さんへ

市立 幼稚園長

大規模地震発生に伴う園児の引き渡し訓練について

震度 6 以上の大規模な地震が起こったと想定し、下記のとおり園児を安全に降園させるための引き渡し訓練を行います。保護者の皆様には、お忙しいこととは思いますが、万一の場合に備えてお子さんの安全を守るため、ご協力をお願いします。

記

日 時 月 日 () 時 ~ 時

目 的 非常災害時に保護者への園児引き渡しを円滑に行う

場 所 幼稚園 園庭

想 定 保育中に震度 6 の大規模地震が発生した場合

訓練内容

園からの緊急連絡を受ける。(11 時頃をめぐりに本部役員に連絡)
地域別連絡網に従い各家庭に緊急連絡網を回す。
(今回、最後の方は役員に戻さない)
連絡を受けた家庭から園児を引き取りに行く。
担任の確認を受け降園する。

緊急連絡網の回し方

- ・ 幼稚園 組の です
- ・ 園児引き渡し訓練の連絡網です
- ・ 至急、園に駆けつけてください
- ・ 次の人に連絡をお願いします

注意事項について

- * 園児を引き取りに来られる方は、『園児引き渡しカード』に届けられた方とします。
- * 必ず連絡網の連絡を受けてから家を出てください。
- * 次の人が留守の場合は、その次の方に連絡してください。
(その際には、連絡がつかなかったことを園長もしくは主任に伝えてください。)
- * お子さんが園を欠席されている場合も、連絡網が回りますので次の方に連絡してください。
- * 必ず、担任がお迎えに来た方を確認してから降園してください。
(兄弟・姉妹の方は、それぞれの担任の確認を受けてください。)
- * 園児は、避難訓練後、そのまま引き渡し訓練に移りますので、担任の確認が終わりましたら、子どもさんと一緒に保育室に荷物を取りに行ってください。
- * 降園途中、通園路の危険箇所の確認、危険回避の指導をお願いします。
なお、家に着くまで訓練の気持ちで臨んでくださいますようお願いいたします。
- * 自転車、自動車の利用はご遠慮ください。
(道路が寸断され、自動車は通行できなくなった場合を想定とします。)

き り と り

引き渡し訓練でお気づきのことや感じられたことを書いてください。
今後の訓練に役立てたいと思います。後日、各担任に提出してください。
よろしくをお願いします。

緊急連絡について

--

引き取り訓練について

--

その他について

--

〔園児引き渡し確認カード例〕

園児引き渡し確認カード				秘
				市立 幼稚園
ふりがな 園児氏名	男 女	組		
住 所	〒			
ふりがな 保護者名			電話 -	
兄弟姉妹	有 ・ 無	組 名前()	組 名前()	
緊急連絡先			電話 -	

引き取り者	氏 名	続 柄	住 所
家 族			電話 () -
			電話 () -
親 戚 知 人			電話 () -
			電話 () -

引き渡した人	続 柄	引き渡し日時	場 所	教職員名
		月 日 時 分		
避 難 場 所				
		月 日 時 分		
避 難 場 所				

発達段階		幼稚園3・4・5歳児					
タイトル		地震から火災が起きたら					
実施日(月日)							
所要時間		10分	15分			10分	
展開		導入	身を守る練習	避難	安否の確認	訓練の講評	
達成すべき目標	ねらい	地震の際に起こると想定される火災について知る	地震を想定した訓練で自分の身を守ろうとする	放送や指示を聞いて安全に避難する		地震や火災から自分の身を守る大切さに気付く	
生成物		地震により火災が起きることの気付き	自分の身を守ろうとする態度	約束を守りながら落ち着いて避難する態度	点呼を受ける態度	避難訓練の大切さの気付き	
作業単位	形態	学級ごとの活動	園全体の活動				
進め方	幼児の活動	地震から火災が起きやすいことを知り、どのようなことに気を付ければよいかを考える。 地震時における火災を想定して避難訓練があることを知り、約束ごとを先生(教員)と一緒に確認する。	放送や教員の指示を聞いて安全な場所に集まり、自分の身を守る。 *4・5歳児は防災ずきんをかぶるなどして頭部を守る。 3歳児は毛布を掛けてもらう。	放送や教員の指示に従い、『お・か・し・も』の約束を守りながら、口をハンカチなどでおさえ、園庭に避難する。	クラスごとに日ごろ並んでいる順番に並び、点呼を受ける。	教員や消防署の人の話を聞き、命の大切さや避難訓練をすることの大切さを感じる。	休憩
	指導上の配慮	地震により火災が起きやすいことを知らせ、どのようなことに気を付ければよいか、話し合う機会をもつ。 地震時における火災を想定して避難訓練があることを知らせ、約束を確認する。	放送を使って地震発生の合図を送る。 幼児を部屋の中央に集め、声をかけるなどして安心できるようにする。	地震により火災が起こったことを放送で知らせる。「地震で先生の部屋が火事になりました。先生と一緒に園庭に避難しましょう。」	日ごろ並んでいる順でクラスごとに並ばせ、人数を確認し、報告する。 「組人中、出席人、欠席人、全員無事避難しました。」	教員や消防署の人より訓練の様子から良かったことや気を付けなければならぬことを話し、意識づけをおこなう。	
ツール	環境・準備物		・園内放送 ・座布団・防災ずきん、毛布など(防災ずきんはクラスの幼児を把握しやすいようクラスごとに印を付けておく)	・園内放送 ・座布団・防災ずきんなど ・誘導ロープ ・煙を吸わないように口をおさえるハンカチ	・集まる場所を知らせるクラスの旗 ・緊急連絡網(名簿) ・非常持ち出し袋	・ハンドマイク	・消火訓練のための点火道具 ・消火器
場所		各保育室			園庭		園庭

発達段階		5歳児						
タイトル		起震車に乗ってみよう(地域の防災訓練にて)						
実施日(月日)								
所要時間		15分		30分		15分	10分	
展開		導入	消火訓練の見学	起震車に乗る際の話 を聞く	起震車に乗る	体験を話し合う	展示品等の見学	まとめ
達成すべき 目標	ねらい	地域の防災訓練に参加し、地震や火事など災害の恐ろしさや対応の仕方について関心をもつ		起震車体験を通して地震時の揺れを知る			災害時に必要な自動車や用品に興味・関心をもつ	消防署や地域の人と かかわり親しみをもつ
生成物		防災訓練への意欲	火や煙の怖さや助け合うことの大切さを感じる心	約束を守ろうとする態度	地震の怖さの気付き		災害時に必要な自動車や用品への関心	災害時の対応の仕方の気付き
作業単位	形態	地域全体の活動		学年全体の活動		グループごと	学級全体の活動	
進め方	幼児の活動	小学校で行われる地域の校区防災訓練に参加し、地域や消防署の方から防災訓練の説明を聞く。		小学生や教員、保護者による消火器やバケツリレーでの消火訓練の様子を見る。	起震車に乗るための約束ごとを聞いたり、小学生が起震車に乗っている様子を見たりする。	友達や教員、保護者と一緒に起震車に乗り、地震時の揺れを体験する。	起震車に乗った感想を話したり、友達の意見を聞いたりする。	その他消防車・救急車・パトカー等を見学したり、防災用品の展示を見学したりする。
	指導上の配慮			幼児とともに消火訓練の様子を見たり、教員も一緒に参加したりする。また、見学している保護者にも参加してもらい幼児にとってより身近に感じられるようにする。	起震車に乗るにあたっての注意事項を消防署の方から聞き、幼児たちに伝える。また、小学生の乗る様子を見せて安心できるようにする。	幼児とともに起震車に乗り、怖がっている幼児には抱いたり励ましたりして不安がらないようにする。また、保護者にも参加してもらい、幼児と共通の体験ができるようにする。	起震車に乗った感想を聞き、実際の地震の怖さを感じられるようにする。	幼児とともに消防署や地域の方の話を聞く。また、幼児たちが消防署や地域の人、小学生など様々な人と親しみをもってかかわれるよう配慮し、地域の一員であることを感じられるようにする。
ツール	環境・準備物	* 事前に消防署や地域の方と打ち合わせをしておく。 * 保護者に校区防災訓練参加の手紙を配布しておく。 ・ 応急医療品、着替え ・ 緊急連絡網		・ 消火器、バケツなど		・ 防災ずきん		
場所		小学校の校庭						

発達段階		5歳児				
タイトル		地震時の危険を探そう(園内)				
実施日(月日)						
所要時間		5分	10分	10分	10分	
展開		話し合い	危険箇所(室内)の発見	危険箇所(園内)の発見	まとめ	
達成すべき目標	ねらい	話し合いから地震の怖さを感じる	地震時の保育室内の危険に気付く	地震時の園内の様々な場の危険に気付く		
生成物		地震の怖さの気付き及び思いを表現する力	地震時の保育室内の危険箇所(積み木、ピアノ、テレビ、窓ガラス、ロッカー上の物など)や安全な場所の気付き	地震時の園内の様々な場の危険箇所(屋根、木、固定遊具など)や安全な場所の気付き		
作業単位	形態	学級全体の活動		グループ	学級全体の活動	
進め方	幼児の活動	地震について知っていること経験したことなどを話したり聞いたりする。	地震時の保育室内の危険箇所を考え、みんなの中で自分の考えを話したり、友達の意見を聞いたりする。	どうすれば危険が防げるかを考え、クラスの中で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする。	園内の様々な場で、地震時に危険な場所がないか、グループに分かれて園内を見回り、確かめに行く。	グループごとに考えた園内の危険箇所を発表する。
	指導上の配慮	地震について、知っていることや経験したことを引き出し、地震の怖さを確認し合う。	地震時に、保育室の中で、危険なところはないか、考えられるよう促す。	どうすれば危険が防げるかを話し合い、幼児自ら安全に対する意識を高められるようにする。	・テラスや園庭など園内の様々な場所で、危険な場所がないか、幼児の意見を引き出す。 ・グループに分けて、実際に見回って確かめられるようにする。 ・グループごとに園内の見取り図を持たせ、自分達で探すという意識をもたせる。	それぞれのグループの意見をまとめ、どうすれば危険が防げるかを考え、意識が高められるようにする。
ツール	環境・準備物				園内の見取り図	大きな園内の見取り図
場所		保育室		園内の様々な場	保育室	

発達段階		5歳児						
タイトル		地震時の危険を探そう(家庭・地域)						
実施日(月日)								
所要時間		5分	10分	10分		20分		
展開		導入	危険箇所(家庭内)の確認	危険箇所(地域)を予想		危険箇所(地域)の発見	家庭への啓発	
達成すべき目標	ねらい	地震時の園内の危険に気付く	地震時の家庭内での危険に気付く	地震時の地域での様々な場所の危険に気付く			家族で地震に対する意識を高める	
生成物		地震時における園内の危険の気付き	地震時の家庭内の危険を知り、気を付けようとする態度や地震に対する意識の高まり	地震時における地域の危険箇所の気付き			家族での地震に対する防災意識の向上	
作業単位	形態	学級全体の活動						家庭にて
進め方	幼児の活動	以前に学んだ地震時の園内の危険箇所について、話を聞き、改めて認識する。	地震時に家の中で危険な場所や物などがいないかを考え、クラスの中で自分の考えを話したり、友達の見解を聞いたりする。	どうすれば危険が防げるかを考え、クラスの中で自分の考えを伝えたり、友達の見解を聞いたりする。	地域の様々な場で、地震時に危険な場所がないか予想し、クラスの中で自分の考えを伝えたり、友達の見解を聞いたりする。	用便を済ませておく	園外へ出る際の約束を守りながら、地域の危険な場所を探したり、確かめたりする。	園での取組を手紙などを通して家庭に啓発し、家庭での危険や身の守り方などを話し合ってもらい、地震に対する意識を高められるようにする。
	指導上の配慮	以前に学んだ地震時の園内の危険箇所について、話をし、確認し合う。	地震時に家の中で危険なところはないか、考えられるよう促す。	どうすれば危険が防げるかを話し合い、地震時の望ましい行動の仕方や身の守り方を知らせ、幼児自ら安全に対する意識を高められるようにする。	地震時に地域の様々な場所を見を引き出す。(ブロック塀、電信柱、自動販売機、信号機、看板、瓦屋根の家など)実際に地域を歩き、危険な場所がないか見回すことを知らせ、園外へ出る際の約束ごとを確認する。		実際に地域を歩いて危険な場所を探したり、確認したりする。その場でどうすれば危険が防げるかを考えられるようにし、意識を高める。	
ツール	環境・準備物	・危険な場や物を絵で示したカード ・見取り図	・家具の固定器具や ・ストッパーなど				・応急医療品、着替え、 ・笛、緊急連絡表など *事前の下見	・園での取組を紹介した保護者へ の手紙
場所		保育室				園外(地域)		家庭

地震発生時の心得

まず身の安全を守る

身の安全を図りながら落ち着いて次の行動を考える

火の始末をする

揺れが、おさまってきたら使用中の火を消す

万一出火していたら消火器、水、毛布をかぶせるなどして、初期消火する

出口の確保をする

出入り口のドア・もしくは窓を素早く開けに行く

ガラスの破片などに注意する

はだして歩かず、スリッパ・靴などを履くようにする

余震に注意する

余震により、被害が広がる恐れがあるため安全の備えをする

隣近所・地域の人々の協力

協力し合って応急救護をする

園では

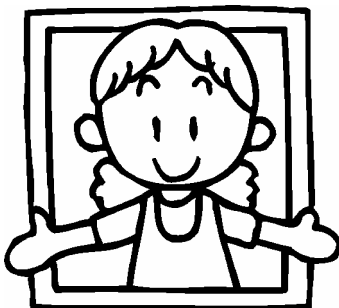
園児名簿は
緊急用として
決めた場所に
保管しておく

日ごろから
地域の人との
かかわりを大切
にしておく

保護者に緊急事態
が起きた時には
園への連絡を徹底
しておく

親子で防災に関する
意識を高めよう！

答えられるかな？



- ・あなたのお名前は？
- ・お家の住所は？
- ・お家の電話番号は？
- ・お父さん、お母さんのお名前は？
- ・どこの幼稚園に通っていますか？
- ・家族と離ればなれになった時、集まる場所は？

もしもに備え子どもたちが答えられるように

保護者に働きかけましょう！

参考：生きてるってすてき（全国幼稚園教育研究協議会兵庫支部発行）

発達段階		5歳児	
タイトル		防災用品から地震を知ろう	
実施日(月日)			
所要時間		5分	30分
展開		導入	防災用品の確認
達成すべき目標	ねらい	防災袋の使い道を知る	防災用品から地震時に起こりうる被害を知り、防災用品の必要性を感じる
生成物	防災袋を準備することに対する興味や関心	防災袋の中身への関心	電気の大切さを感じる心 水の大切さを感じる心 防災用品の準備など、日ごろからの備えの大切さの気付き
作業単位	形態	学級全体の活動	
進め方	幼児の活動	防災袋を見て、どのような時に使うものなのかを考える。 防災袋の中身を見ていく。 ・ 応急医療品 ・ ラジオ ・ 懐中電灯 ・ 電池 ・ 水 ・ 衣類、靴 ・ ラップ ・ 紙コップ、紙皿	『懐中電灯』が防災用品として、どうして必要なのかを考え、地震時の被害の状況を知る。
	指導上の配慮	防災袋を見せ、どのような時に使うのかなど幼児の意見を引き出し、地震などに備えて必要な用品を準備しておくことを伝える。 ・ トイレtpペーパー ・ ティッシュペーパー ・ ブルーシート ・ 毛布 ・ タオル ・ ビニール袋 ・ 軍手 ・ マッチ類	『水』が防災用品として、どうして必要なのかを考え、地震時の被害の状況を知る。
ツール	環境・準備物	・ 防災袋 ・ 非常食 ・ 園児名簿 ・ 引渡しカード ・ 地域の医療機関一覧表 など	『懐中電灯』が必要なのか考えられるよう促し、電気が使えなくなった場合の状況を伝える。 ・ 懐中電灯 ・ ラジオ など 『水』が防災用品として、なぜ『水』が必要なのか考えられるよう促し、水道が使えなくなった場合の状況を伝える。 ・ 水(飲料水・生活用水) ・ 衣類 ・ ラップ ・ 紙コップ・紙皿 など その他の防災用品から、被害の状況や地震の恐ろしさを知らせたり、日ごろからの備えの大切さを伝えたりする。 ・ 応急医療品 ・ 毛布 など
場所		保育室	

家庭への啓発	親子で地震に対する意識を高め、備えの大切さを知る
	幼児たちの園での学びの啓発と家庭での地震に対する防災意識の向上
家庭にて	今日の園での取組を手紙などを通して家庭に啓発し、防災用品などの日ごろの備えの大切さや地震の恐ろしさを知らせ、家庭で話し合う機会をもってもらうなど、地震に対する意識を高められるようにする。
	・ 園での取組を紹介した保護者への手紙 ・ 防災用品
家庭	

園の防災用品袋に備えておくもの

園児名簿	園児引き取りカード	応急医療品
医療機関一覧表	現金	10 円玉(公衆電話用)
携帯用ラジオ	懐中電灯	電池
着替え	軍手・ゴム手袋	ゴミ袋(ビニール袋)
ティッシュペーパー	ウエットティッシュ	タオル
筆記用具	ハサミ	メモ帳
ガムテープ	水	非常食
ビニールシート	防災ずきん	ライター



応急医療品

消毒液	乾綿・綿棒	絆創膏
滅菌ガーゼ	三角巾	包帯(ストッキング)
サージカルテープ	体温計	湿布
ハサミ	ピンセット	毛抜き(とげ抜き)
ビニール袋	常備薬	



参考 : 「生きる力」を育む防災教育 (神戸市教育委員会)

発達段階	5歳児				
タイトル	防災用品から地震を知ろう - 非常食を食べよう -				
実施日(月日)					
所要時間	15分		15分	10分	
展開	導入	地震時の被害状況の想像	非常食の試食	まとめ	
達成すべき目標	ねらい	非常食から地震時に起こりうる被害を考える		非常食に関心を示し、食べることを通して、地震に対する意識をもつ	
生成物	非常食への興味	地震時の被害状況及び地震の恐ろしさや日ごろの備えの大切さの気付き	非常食の試食体験 地震時の被害や過ごし方の気付き	食に対する関心及び感謝の気持ち	
作業単位	形態	学級全体の活動			
進め方	幼児の活動	非常食を見て知っていることを話したり、どのような時に食べるものかを考えたりする。	非常食の必要性を感じたり、地震時の被害の状況を考えたりする。	実際にどのような味がするのか食べてみる。 ・カンパン ・アルファ米 (白飯・五目ご飯・山菜おこわ)	食べた感想を言ったり聞いたりする。
	指導上の配慮	非常食であるカンパン・アルファ米・カップ麺を見せ、どのような時に必要なのかを考えられるよう促す。	地震時になぜ非常食が必要なのかを考えられるよう促し、被害の状況を感じられるようにする。		感想を聞き、震災直後は、普段当たり前のように食べている食事が摂れないことを伝え、感謝の気持ちもてるようにする。
ツール	環境・準備物	・カンパン ・アルファ米 ・カップ麺		・カンパン、アルファ米 ・湯 ・スプーン、容器、アルミカップなど	
場所	保育室				

発達段階		5歳児					
タイトル		阪神・淡路大震災の体験談を聞こう					
実施日(月日)							
所要時間		5分	20分	5分	休 憩	10分	
展開		話し手の紹介	阪神・淡路大震災の体験談	質問・感想		絵本の読み聞かせ	
達成すべき目標	ねらい	講師に対する親しみの気持ちをもつ	地震について関心をもち、命の大切さを感じる			絵本の内容に興味・関心をもつ	
生成物		話を聞く意欲	・地震の様子や恐ろしさ ・命やもの、助け合い、困難に負けず頑張ることの大切さを感じる心	震災の話に対する感想		地震の恐ろしさや命の大切さを感じる心	
作業単位	形態	学年全体の活動				学級全体の活動	
進め方	幼児の活動	講師の紹介と目的を聞く。	震災が起こった時の状況を聞く。	震災後の町や人々の様子など被害の状況やその時の思いなどを聞く。	震災から復興していこうとする人々の姿や町の様子、その後残された課題などを聞く。	話を聞いて感じたことや気になったことを質問したり話し合ったりする。	『あしたもあそぼうね』の絵本を読んでもらう。
	指導上の配慮	阪神・淡路大震災の体験を聞かせてもらう講師の紹介をし、簡単な話の概要を伝え、話を聞こうとする意欲を引き出す。			話を聞いて感じたことや気になったことを引き出し、幼児と講師の仲立ちとなる。	今日の話と共通する内容の絵本『あしたもあそぼうね』の読み聞かせをし、改めて命の大切さやたくましく生きることの大切さが心に残るようにする。	
ツール	環境・準備物	写真など			絵本『あしたもあそぼうね』(兵庫県教育委員会発行)		
場所		保育室					